

# 青梅市文化財ニュース

第 3 6 7 号

平成 3 0 年 5 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

## 和田町に伝わる「おとうみょうせん燈明 錢」の行事について

青梅市梅郷地区に位置する和田町に、江戸時代末から続いている「おとうみょうせん燈明 錢」という行事があるという話を聞き訪ねてみることにしました。

和田町の軒数は、戦後すぐの昭和 20 年代には 69 軒しかありませんでしたが、昭和 40 年代以降になって住宅が増え、現在は 400 軒近くあるそうです。

町内には、1 月に「天神様」、7 月に「お天王様」の祭礼があります。かつては、牛頭天王と呼ばれていましたが、廃仏毀釈により神社名は八雲神社に変わりました。ここは徳昌寺の敷地内になります。

昔は、社殿の下方、東方向に志村家の神社があり、その敷地内に「若者宿」という小屋がありました。祭礼当日には子供達だけで「おこもり」をしましたが、現在は行われていません。

子供達は町内の各家庭を回って、「お燈明 錢」を集め、ロウソクを買って参道にかざしました。昭和 41（1966）年以前は、中学生が「お燈明 錢」を集めていましたが、以後は小学生が中心となり、保護者と一緒に回っています。

昔は、地口行灯用の菜種油を買うための「お燈明 錢」を集め、昭和 30 年代位までは地口行灯を神社の参道にかざしていました。

集めたお金の使い方は、次第に変わり、参道にかざすロウソクや文房具を買った時もありましたが、現在は子供会の球技大会などの活動資金として使われています。

祭礼当日は、午前中に子供会で神社の清掃を行ってから「お燈明 錢」集めに出かけ、午後は役員によって祭礼が行われています。

明治 27（1894）年 4 月 16 日に現在の西東京農協吉野支店付近から出火し和田地区まで延焼した吉野村の大火により、多くの貴重な資料が焼失してしまったため、この行事の詳細は不明です。

昭和 41（1966）年に東京都教育委員会が発行した『東京都文化財調査報告書 1 6 一 東京都民俗資料緊急調査報告』によると、当時は 1 月 24 日と 25 日に天神様のお祭り、7 月 15 日に天王様のお祭りが行われたそうです。

当日には、「アズキ飯を炊き、魚を供えて祝う。天神様の境内に店ができて、ノボリが立ち部落の人々がオマイリをする。24 日の前日には、子供達がお燈明 錢を集めに来る。このお金でデンガクドウロウの中に蠟燭をとす。部落の子供達はこの残りのお金でお菓子を

買って食べた。火の番も子供達がした。神社の拝殿の下に物置の様な小屋があり、夜あかしで太鼓をたたいたりした。」とあり、7月の時も同様のことをしたという聞取りの記載があります。

このように江戸時代からの行事が、形は少しずつ変わっても地域の中で脈々と受け継がれていることに、感動を覚えました。

話を伺った人（敬称略）

神山鉄二郎・古山登三・和田敏信

参考文献

『東京都文化財調査報告書 16 一東京都民俗資料緊急調査報告』（昭和 41 年 東京都教育委員会）

（文責 東山 啓子）